

高校卒業後の定住と公共交通利用促進を目的とした「ちかいわプロジェクト」

岩国市総合政策部地域交通課
中田誠・中本健太
(株)バイタルリード
西村智明・岡田あかね・高橋ちひろ



背景

- 岩国市は山口県の東端に在する市で、広島県と島根県の県境に接している。
- 岩国市内の大学・専門学校等は3校のみ。10代後半から20代前半の若者の多くが進学・就職により市外・県外に転出している転出超過の傾向がある。
- JRや高速バスを利用すれば、周南市や広島市まで1時間程度で行くことは可能。
→ 岩国市からのアクセスの良さを知らないまま、進路選択を行っている人が多いのでは？
- そこで、「ちかいわプロジェクト」を実施

自然もあって子育てしやすい岩国に住み続けながら、公共交通で通学・通勤する。そんなライフスタイルを応援し、公共交通の利用を促進するのが「ちかいわプロジェクト」です。

目的

岩国市内の公共交通に対する理解を深めてもらい、高校卒業後も市内に定住しつつ公共交通での通学・通勤を促すため

対象

- 1 進路選択を控える岩国市内の高校2年生とその保護者
- 2 前年度「ちかいわプロジェクト」の対象だった高校3年生とその保護者（前年度の効果測定のため、2年目から追加）

2019年度のアンケート対象

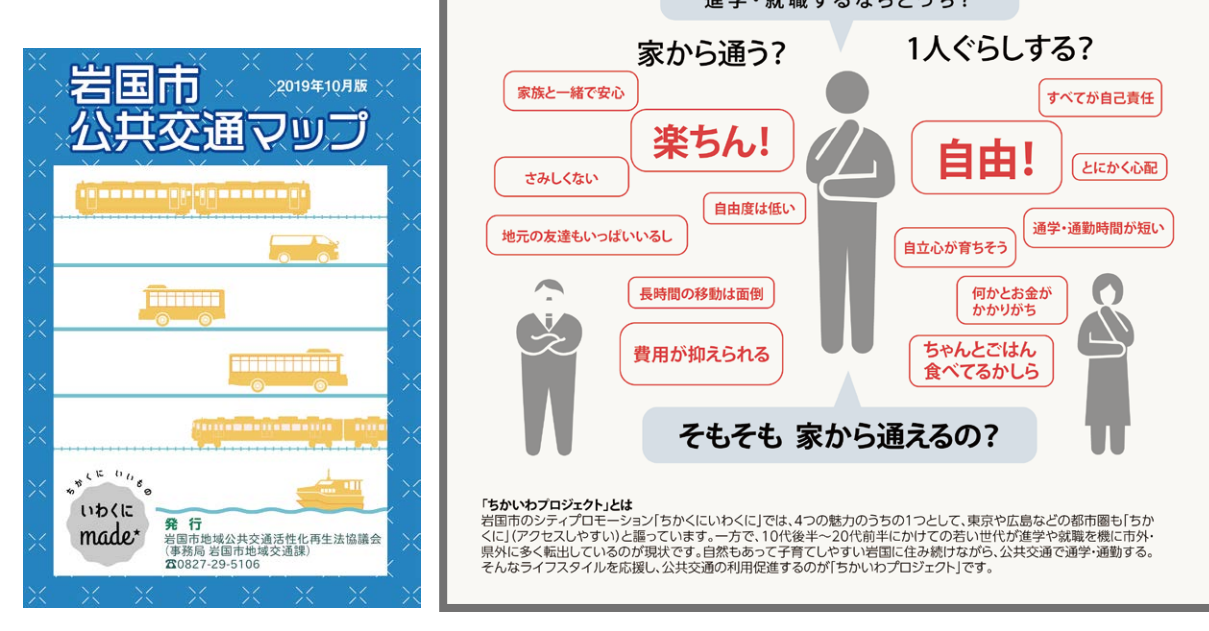
学校数	9校
生徒数(配布実数)	2年生…756人 3年生…580人

実施方法

アンケートと資料一式を学校へ送付し、生徒への配布と回収を行ったのちに返送して頂く。

- 1 2年生とその保護者への配布物
 - 生徒用アンケート
 - 保護者用アンケート
 - 岩国市公共交通マップ
 - ちかいわプロジェクトパンフレット
- 2 3年生とその保護者への配布物
 - 生徒用アンケート
 - 保護者用アンケート

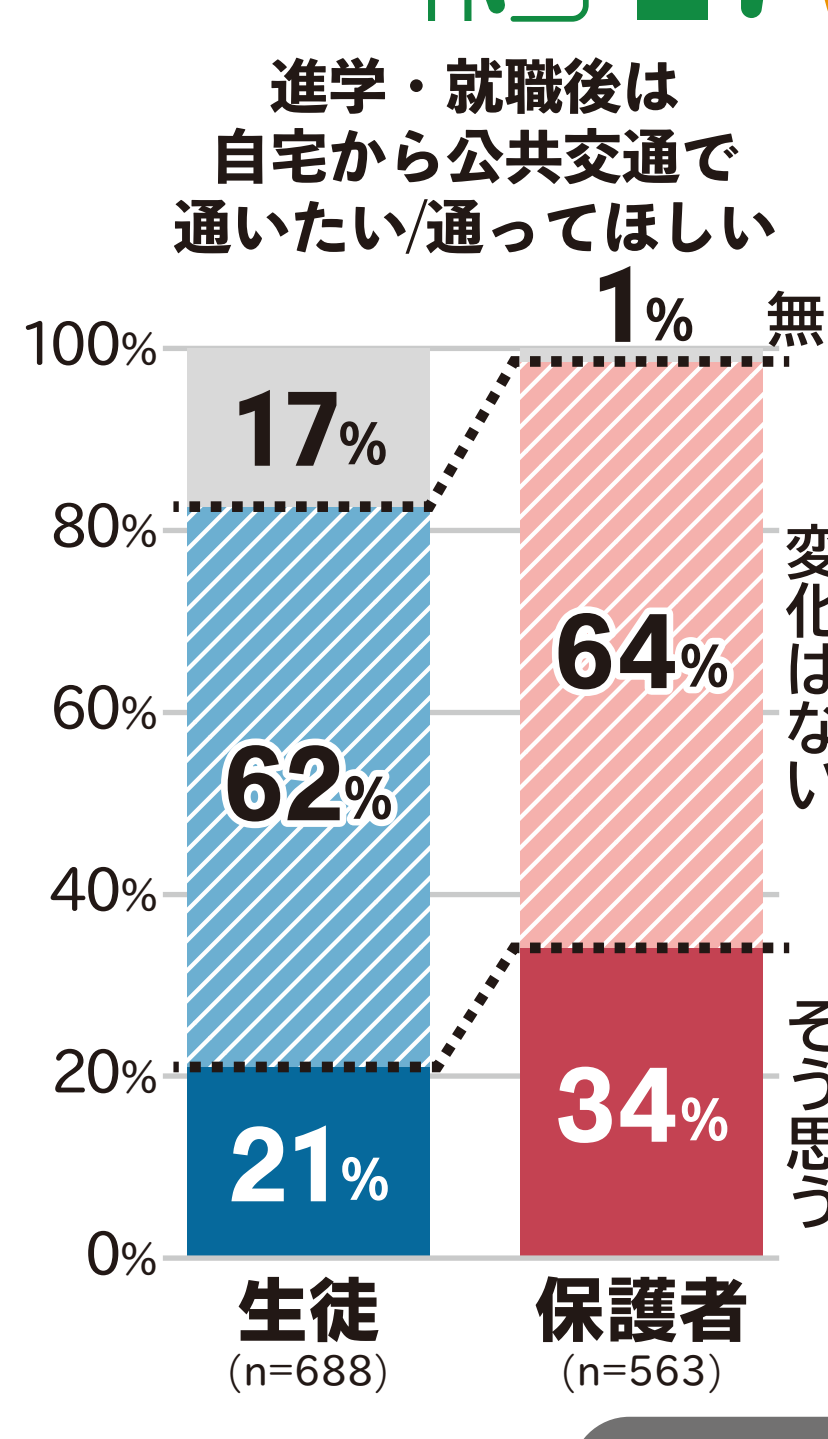
実物を展示しています
ぜひ見てください!



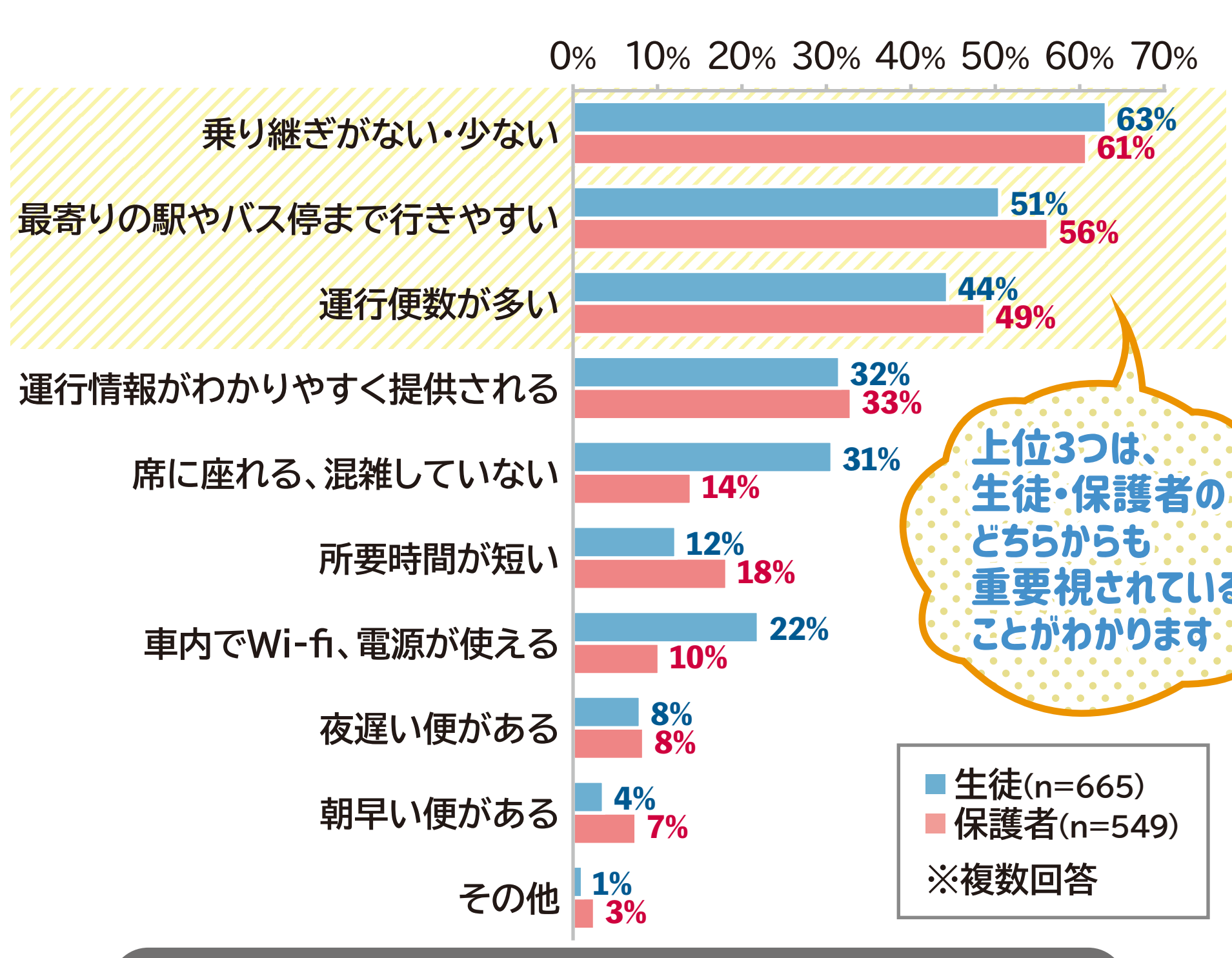
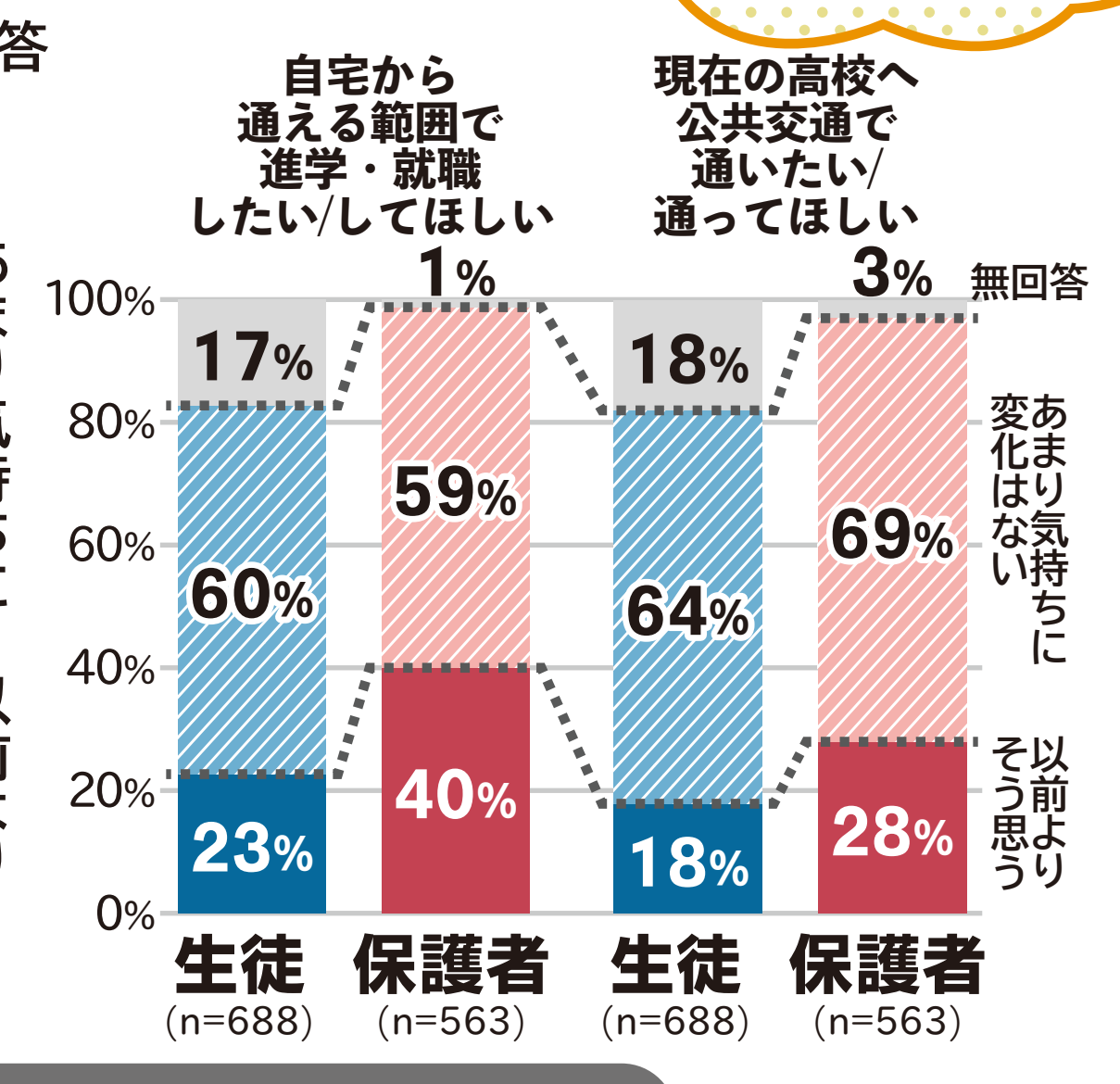
▲2年生に配布したマップ・パンフレット(2019年度)

岩国市では、岩国市内の高等学校や一部の中学校へ通学する生徒に向けて、対象となる交通機関の通学定期券が割引となる「通学定期券利用促進事業」を行っています!

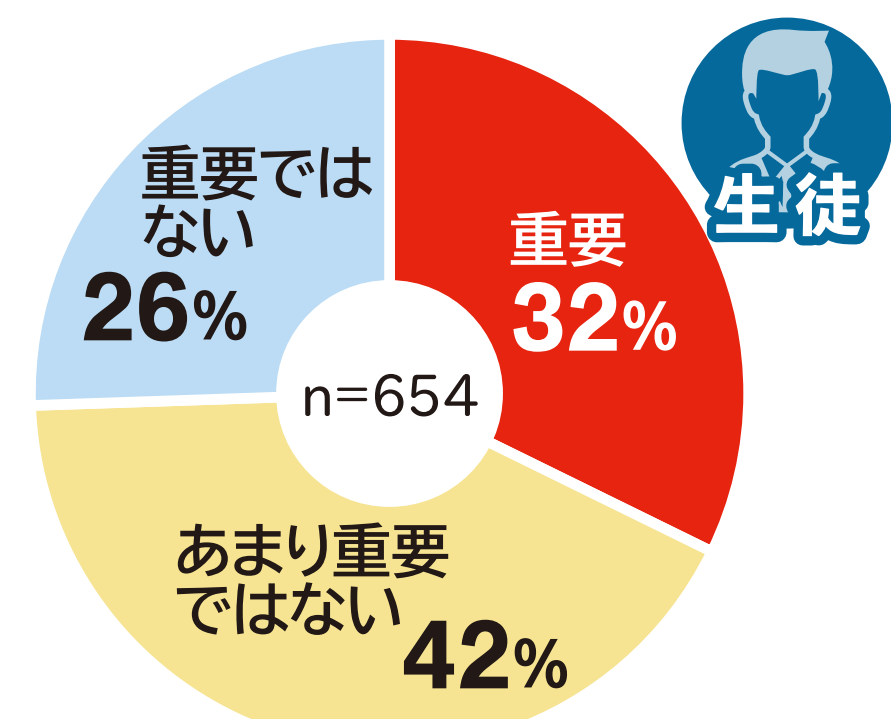
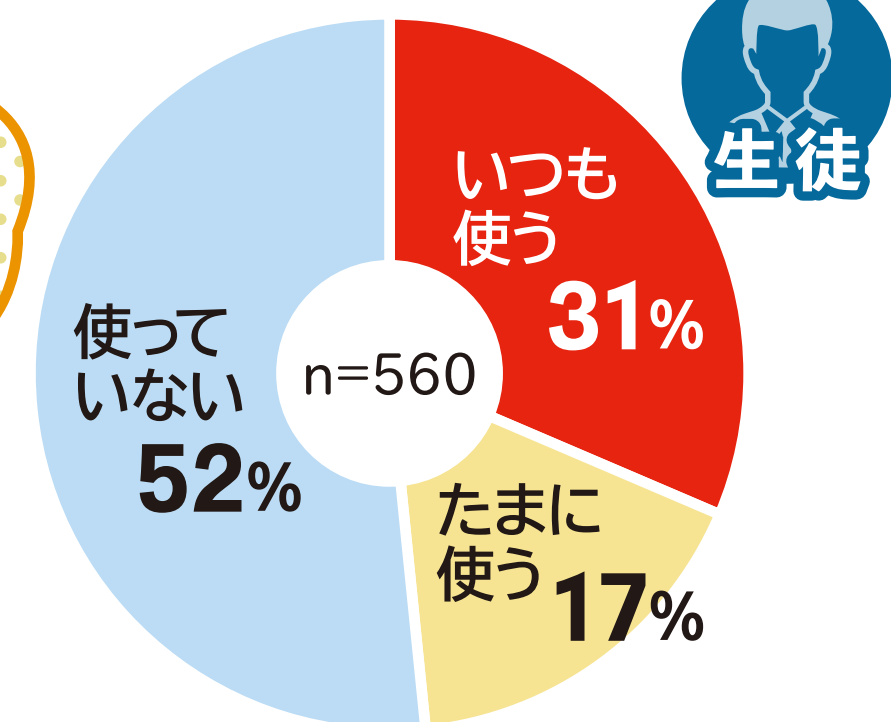
2年生



プロジェクトの資料を見て、「進学・就職先に自宅から公共交通で通ってほしい」と以前より思うようになった保護者は**34%**!



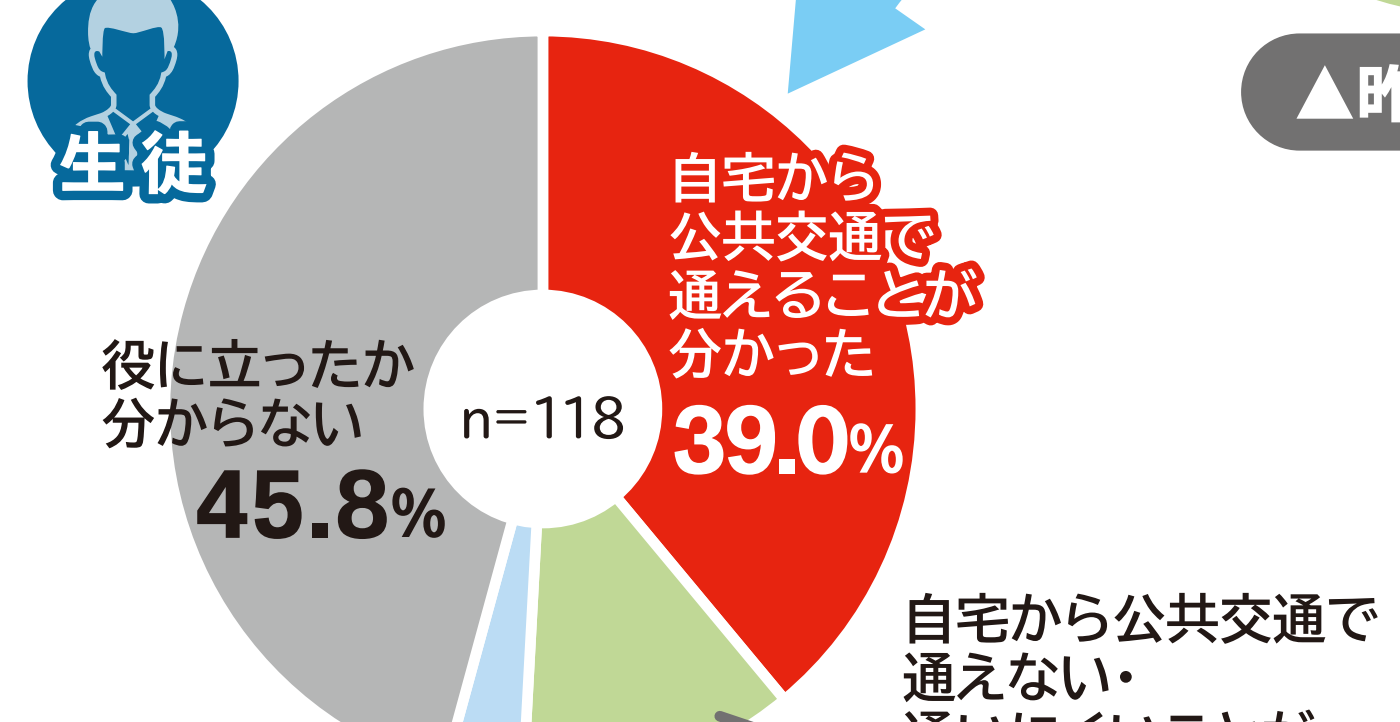
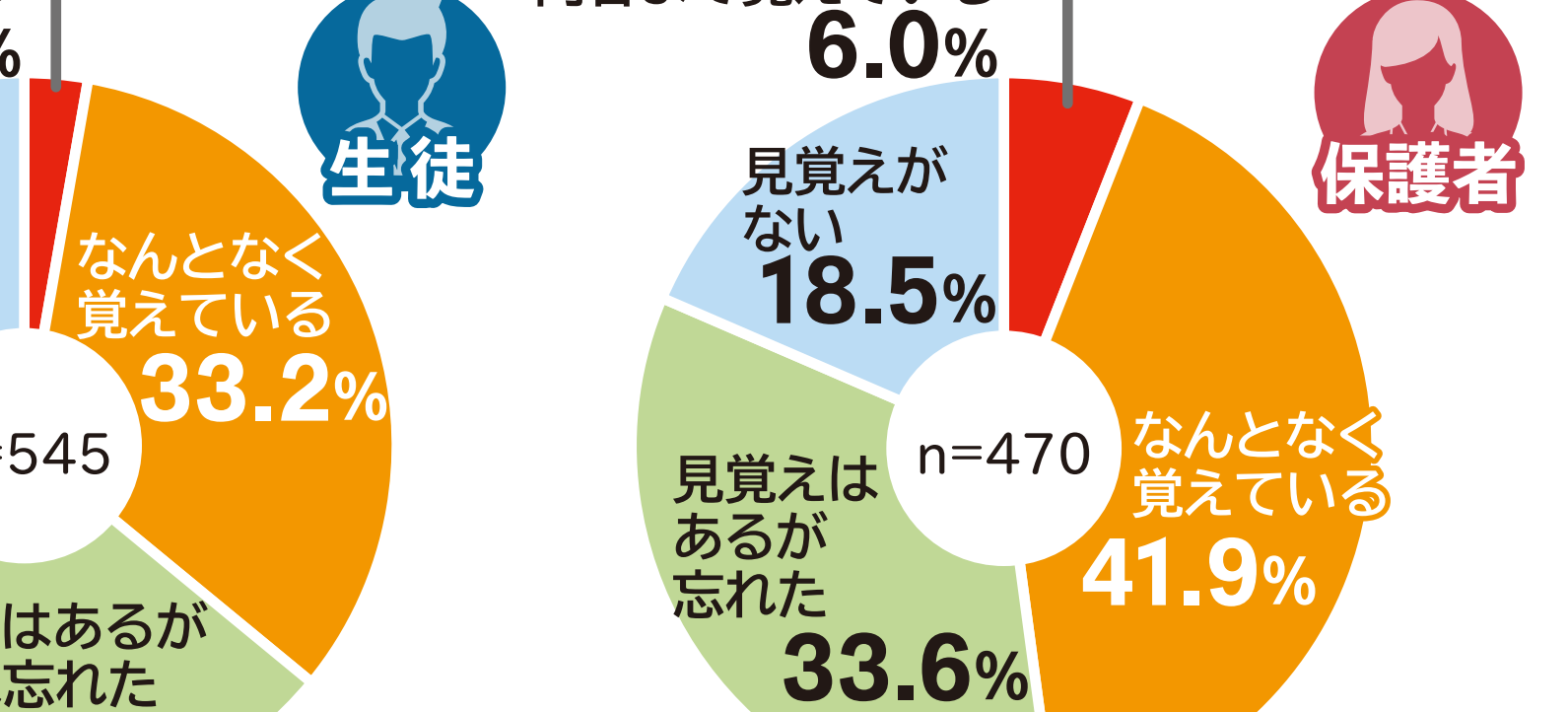
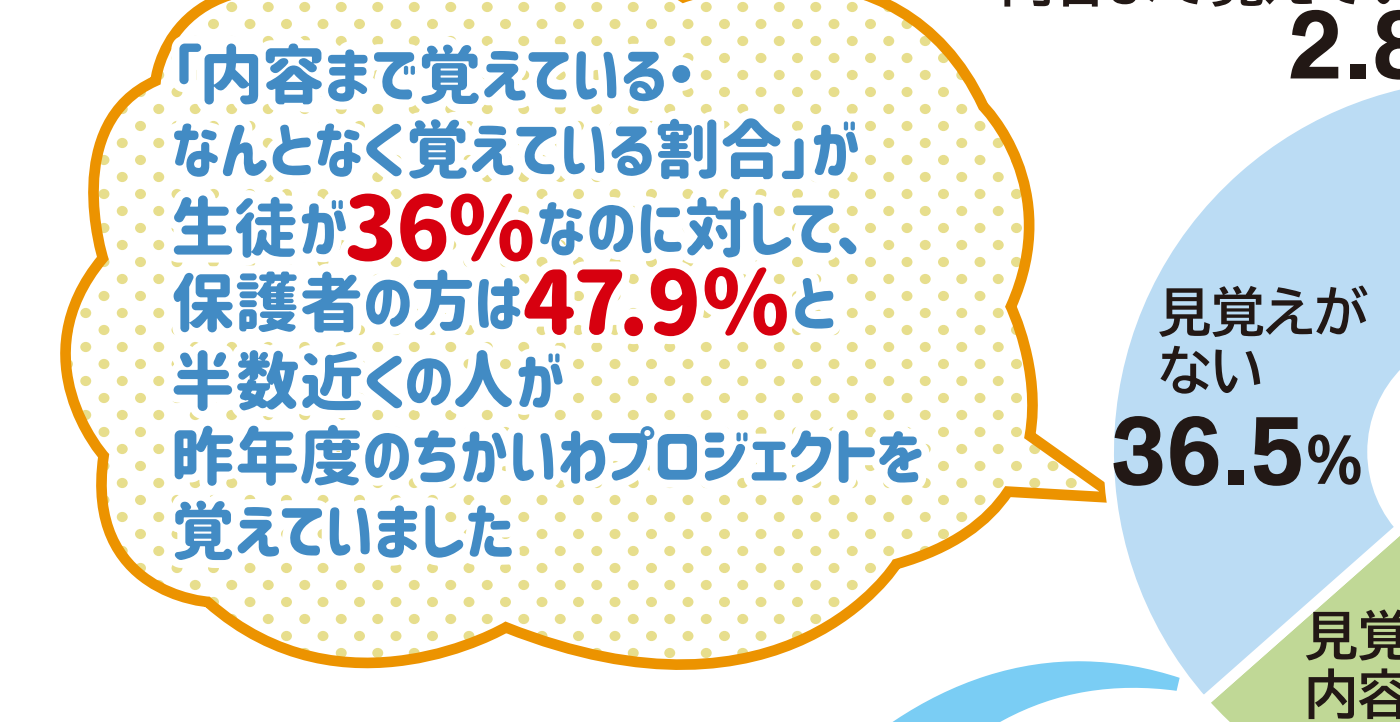
2019年度のアンケート調査結果



自由意見

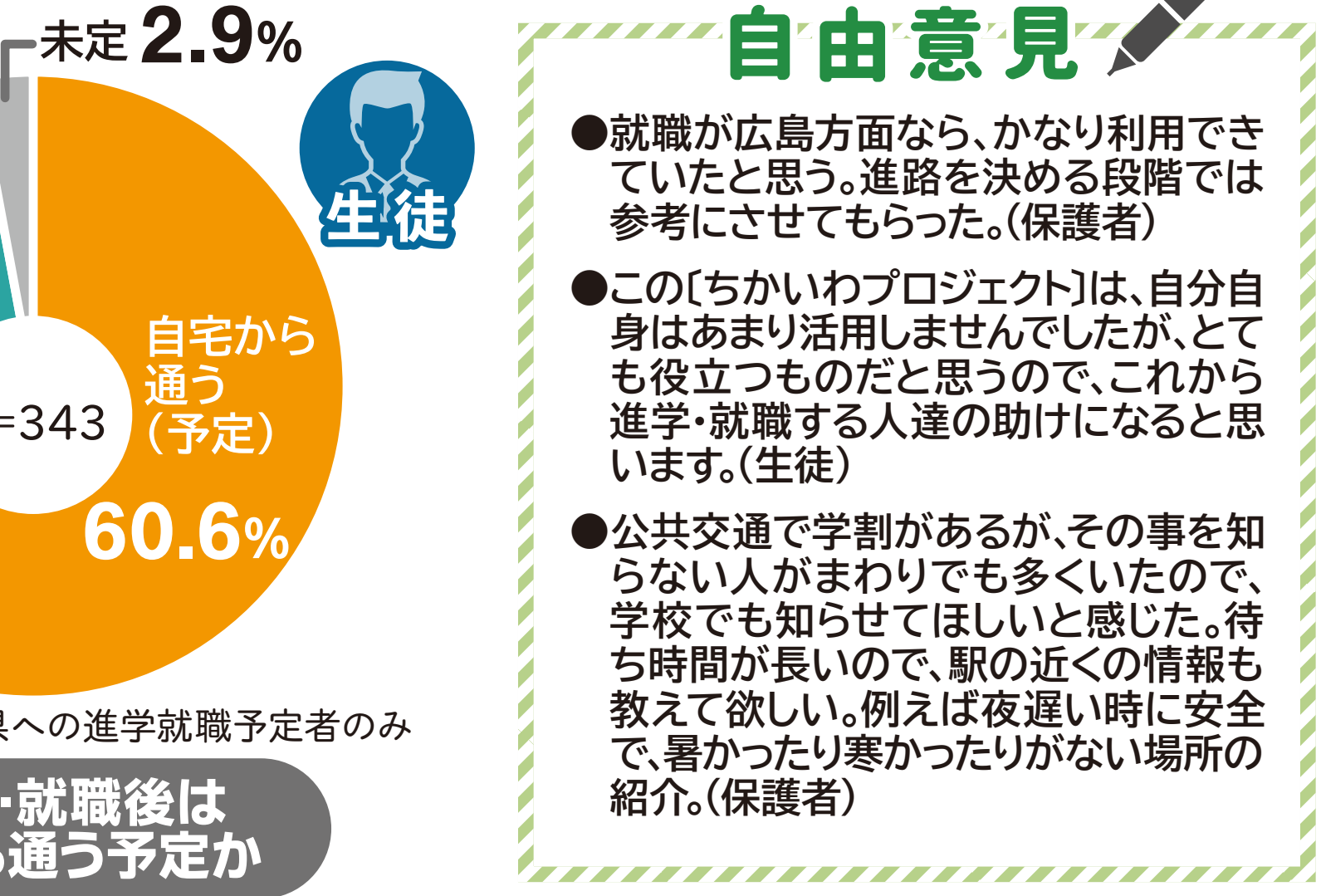
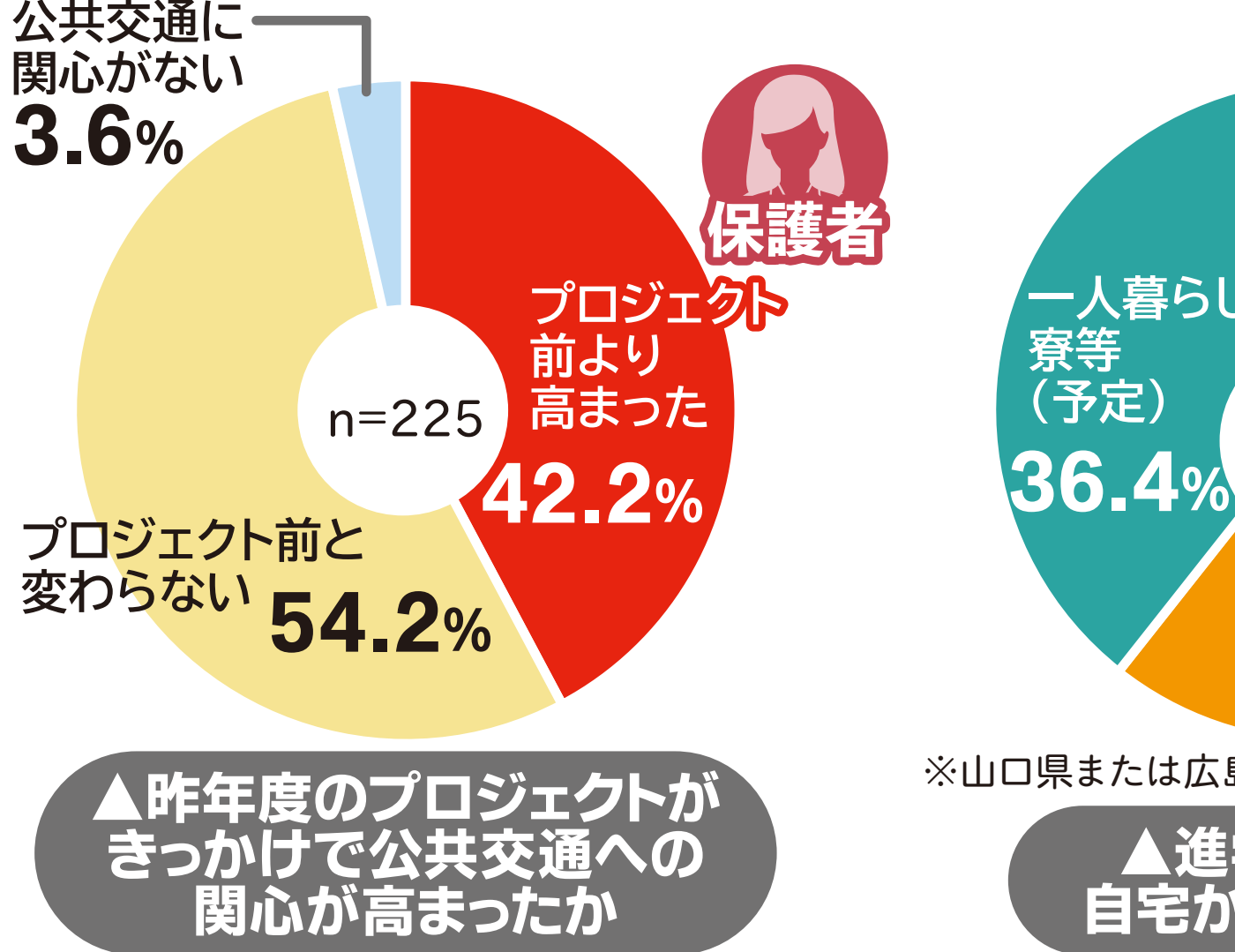
- 公共交通を利用することで、多くの場所に行きやすいということが改めて分かり、大切に気づいた。(生徒)
- 大学は決めてあるが、通うのは無理だと思っていたところ、この2つの資料を見て、公共交通で通うのも可能だと気づいた。(保護者)
- いつもではないが、週2で塾に通うのに利用できると思った。(生徒)
- 通える進学先が目で見えてすぐわかるマップがよかった。1つ1つで見るとピンとこなかった。(保護者)
- 分かりやすく書かれている。家から通うのが1番いいことはわかっていたが、このマップでやはり通える範囲に行きたい学校がないということが改めてわかりました。(保護者)

3年生



▲卒業後、自宅から公共交通で通うことについての検討に役立ったか

▲進学・就職先の検討に役立ったか



その他の結果まとめ

- 昨年度のちかいわプロジェクトがきっかけで公共交通の利用回数が増えたかという設問で3年生の生徒8.7%、保護者6.7%が「増えた」と回答している。また、生徒の内1.0%が「ちかいわプロジェクトをきっかけに、新たに通学定期券を購入した」と回答している。わずかではあるが、公共交通に対する意識の変化が現れる結果となった。(いずれも、昨年度のちかいわプロジェクトを「内容まで覚えている」または「なんとなく覚えている」と回答した人のみ)

今後の課題

- 公共交通の料金や所要時間の目安を知りたいとの声もあったため、パンフレットに掲載している進学先へ通う為の情報を見直し、より活用しやすいものへ改善する必要がある。
- 本プロジェクトは現在3年目のアンケート調査を行っている最中である。更に効果的な結果を出すためにはどうすべきなのかを今回のアンケート結果や意見を参考に見直しを取り入れてより効果の高い取組にしていく必要がある。
- 効果の測定方法が難しいため、今後どのように測定を行うかを見直しながら改善していく必要がある。

